全国曹洞宗青年会

SOUSEI

2014.8 No.166

語らう

特集
全曹青40周年記念行事
開催レポート

40th ZENSOUSEI 40th Anniversary

繋がる想いが未来を拓く

平成11年6月8日第三種郵便許可（年4回2・5・8・11月の10日発行）そうせい第166号 平成26年8月発行

特集 語らう

～全曹青創立40周年記念行事 開催レポート

全曹青40周年
記念式典・シンポジウム・祝賀会レポート

平成26年5月20日、全国曹洞宗青年会創立40周年記念式典が開催されました。

会場となった曹洞宗檀信徒会館3階桜の間は、全国各地より集った約200人もの曹洞宗青年僧、また諸先輩によって埋め尽くされました。

14時に記念式典が開会。当会物故者への黙祷・『会の目的』唱和・仏祖諷経の後、櫻井尚孝第20期会長が挨拶。挨拶の中で「つながり」という言葉が数多く聞かれ、今期スローガン『繋がる想いが未来を拓く』への強い想いが感じられました。続いて、来賓を代表して第2期会長・大本山總持寺副貫首石附周行老師、曹洞宗宗務庁伝道部長・齋藤裕道老師より御祝辞をいただきました。その中において石附老師からは、全曹青創立時からのテーマである「大衆教化の接点を求めて」を引用した上で、「青年僧侶の活動がその時その時の社会ニーズに合致するよう願っている」との励ましのお言葉をいただきました。

式典後、15時30分より『全曹青40年の歩み～宗侶エネルギー再結集～』と題したシンポジウムが開会。荒木道宗40周年記念事業実行委員会委員長によるプレゼンテーションを皮切りに全曹青活動プロモーションビデオ・各期の主な活動をまとめたプロモーションビデオを放映。当時の歴代会長が順に登壇して、当時の活動紹介や苦労したエピソード、また後進に向けた叱咤激励の言葉をいただく構成で行われました。歴代会長が一同に会し、横一列に並んでいる姿は、40年の歩みを目の当たりにする貴重な出来事であると感じました。

【各期会長のご発言の要旨】

第3期会長・佐藤泰惇老師からは、全曹青発足当時の経緯や想いを熱く語っていただきました。

第5期会長・櫻井孝順老師からは、「坐禅・お寺をもっともっと活用した教化を」との叱咤激励をいただきました。

第8期会長・伊藤道宣老師からは、「今、禅が求められている。各地で行われている『緑蔭禅の集い』が重要である」との言葉をいただきました。

第9期会長・木南広峰老師からは、現在も好評である『花まつりキャンペーン』開始のエピソードをお聞きしました。4月8日を「しあわせの日」として「あなたの大切な人に花をおくりませんか」と銘打って始められたことは大変興味深かったです。

第10期会長・吉川俊雄老師からは、阪神淡路大震災救援活動の年がボランティア元年であったこと、また、何事も「接点」がないと物事は前に進まないとの言葉をいただきました。

第11期会長・桜井朝教老師からは、ボランティア活動の大切さ・インターネットの大切さを強く感じた時期であったとお聞きました。また、足元を見た活動、つまり「地域を愛し、お寺を愛し」といった身近な接点の活動を大事にするようにとの提言をいただきました。

第12期会長・寿松木宏毅老師からは、特に広報誌『SOUSEI』の内容について、「社会に対する苦悩や個人の苦悩をもっととりあげてほしい。あまり表に出てこない部分に光を当てるような内容を期待する」との言葉をいただきました。

第13期会長・荒木正昭老師からは、「お寺や僧侶の人気がないのは、自分が苦労して布施をしている姿が見えないから」との提言をいただきました。

第14期会長・池上幸秀老師からは、全曹青はトップダウンの組織ではなく連絡協議体であることを意識するよう助言をいただきました。

第15期会長・山口英寿老師からは、「それぞれの立ち位置で接点はある。どうするかではなく、自分がどの立ち位置にいるのかを考えた行動が大事である」との言葉をいただきました。

第16期会長・宮寺守正老師からは、「全曹青が何をもって、ボランティア活動・支援活動を行うのか、また地元曹青、行政（ボランティアセンター）との連携を模索した」との苦労したエピソードをお聞きしました。

第17期会長・芳村元悟老師からは、全曹青に参加して学んだ経験を、今度は地元に持ち帰ることの大きな役目について、又、わからないことを共に研究することや情報発信の大切さをお聞きしました。

第18期会長・久間泰弘師からは、先輩からお聞きした「全曹青に参加している者は、歴史の中で今があることを忘れるな」との言葉が心に残っていることをお聞きしました。また、学びそれを現場で活かす、現場で活動しまた学ぶ、何事もこの繰り返しであると強調しておられました。

第19期会長・松岡広也師からは、縦横のつながりを実感した連絡協議体であったこと、他宗派との交流も盛んであったとお聞きしました。

各期とも、全曹青には「連絡協議体」としての役割と「大衆教化の接点を求めて」いく企画事業体としての目的が活動の根底に流れていると感じたシンポジウムでした。特に第3期会長佐藤泰惇老師の言葉、「皆さんでなければ為し得ない。自信を持って推進していただきたい」との言葉が心に残りました。

その後、18時30分から同会場で祝賀会が催されました。清興では、第3期会長佐藤泰惇老師による尺八演奏・三重県曹洞宗青年会和太鼓集団『鼓司』による太鼓演奏があり、会場は大いに盛り上がりました。

最後に、第5期会長・櫻井孝順老師の万歳三唱で閉会となりました。

記念式典・シンポジウム・祝賀会と一連の記念行事に参加させていただきましたが、全曹青40年の歩みの重さと、これからの全曹青への期待をひしひしと感じる時間となりました。

文／広報委員　西古孝志

全国曹洞宗青年会 創立40周年記念式典　記念講演

平成26年5月21日、曹洞宗檀信徒会館3階桜の間を会場に、全国曹洞宗青年会創立40周年記念講演が開催され、講師には愛知専門尼僧堂堂長・愛知県正法寺御住職の青山俊董老師をお招きいたしました。この記念講演は禅文化学林を併催とし、当日は雨天の中、青年僧だけでなく多くの一般の方がたも聴講されました。

「たったいちどの生命（いのち）をどう生きるか～宗教とは　仏教とは～」と題し、青年僧に仏教者としての生き方を問い掛けるだけでなく、一般の方にも分かり易く、時には会話を交え、時には仏教の逸話を交えながらのお話でした。全国曹洞宗青年会の草創からの命題である「大衆教化の接点を求めて」に通じるお話であったと感じました。

お釈迦様がチュンダに遺された四道沙門のお話を先ず示され、続けてタクシー運転手との会話のエピソードより「僧侶は職業ではない。生きていく手立てではない。誰もが、たった一度の命を最高に生きたい。その落ち着き所を求め求めてこの姿になった」との言葉、澤木興道老師の言葉「宗教は生活である」を示され、立見席の仏法・傍観者の仏法ではなく、職業・趣味ではなく、自分の生き方を選んで選んで、選び尽くした『生き方』としての仏法こそが肝要であると説かれました。

その姿を音楽家に譬え、「作曲家は仏様。楽譜は法（経）。生演奏は僧（行）」とし、今に生きる者（僧）が生演奏をして（行）こそ、楽譜（経）が命あるものとして生きてくると説かれました。またお経に関して、過去に受けられた質問「お経は死んだ人に読むものか？自分の足元に読むものか？」を引用し、自分の生き様を棚に上げて仏壇（亡くなった人）に読むのがお経と勘違いしていないか。そうではない。たったいちどの命の今を少しでも悔いなく最高に生き、間違いない生演奏をするための導きとしての楽譜＝お経であると説かれました。

また、松尾芭蕉の「不易と流行」を譬えに、時と所を越えて変わらない「不易」、時と所で無限の展開を見せる「流行」の中で、不易の一点として我々が押さえていないとならないものは何か？衆生を「安心」の一点に誘引する親切心がなければならないと説かれました。

老師のお話は多岐にわたり、熱心にメモを取る聴衆も多数おられました。1時間半を超える講演の中で、仏教を行い繋いでいく「我々の修行は『修業』ではない。行ずるものであり、生き様だから『卒行』が無い」との言葉が、深く心に残りました。

文／広報副委員長　宮入真道

ZENSOUSEI 20th

全曹青レポート

平成26年度 第2回執行部会

平成26年5月19日10時より、曹洞宗檀信徒会館3階菊の間で開催されました。議決目標「理事会に上程する各委員会資料の確認」「周年事業について」「委員会運営について」のもと、議題1／委員会活動報告、議題2／40周年記念事業について、議題3／事務局事業・災害対策について、議題4／その他（今後の予定についてなど）について討議しました。

平成26年度 第2回理事会

19日16時、引き続き20日9時より3階菊の間で開催されました。冒頭の会長挨拶の後、新たに関東管区理事に就任した森橋憲良師（曹洞宗埼玉県第二宗務所青年会）が挨拶。その後、執行部会で相互確認された議題について審議いただきました。

平成26年度 定期評議員会

5月20日12時より、4階芙蓉の間で定期評議員会が開催されました。三帰礼文の後、全員で自然災害物故者への黙祷を捧げ、会長挨拶の後、各議案を審議いただきました。お集まりいただいた評議員より、主に会計報告や事業予定についての活発な質問・意見をいただきました。

平成26年度 定期総会

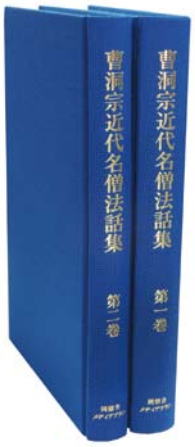
5月21日、13時より3階桜の間で定期総会が開催されました。各委員会からの平成25年度事業及び決算報告が行われたのに引き続き、平成26年度事業計画案及び予算案が審議されました。総合企画委員会からは「絵馬に願いを込めて」について、広報委員会からは「全曹青facebookページ」について、40周年記念事業実行委員会からは「全国徒弟研修会with国際子ども禅のつどい～未来へ向けての大いなる足音～」についてなどが提案され、過半数の賛成により承認されました。また、特別委員会の活動報告が行われ、東アジア国際仏教徒青年交換プログラム・東日本大震災復興支援、ウェサック祭（仏誕会）・マレーシア国際仏教公演芸術祭の活動が放映されました。最後に、全日仏青から『ブッダ2』DVD頒布について、四国地区曹洞宗青年会から「禅文化学林」について、九州曹洞宗青年会から「伝道句集『生きる力・命の力』」の頒布について、また、チャイルドライン福島の活動などが報告されました。

5月20日・21日の両日に曹洞宗檀信徒会館にて開催いたしました、全国曹洞宗青年会創立40周年記念式典・シンポジウム・祝賀会・記念講演に際しましては、全国遠近より、諸大徳諸先輩の皆様、会員諸禅兄に御参集いただき、かつ過分なる御祝意、御法援を賜りましたことに厚く御礼を申し上げます。当日は２００人を超える諸縁の皆様の御結集をいただき、また翌日の愛知専門尼僧堂堂長・愛知県正法寺御住職青山俊董老師を拝請しての記念講演では満場の会衆をいただきましたこと重ねて御礼を申し上げます。40年の歳月を重ねた当会の知恵と経験を次世代に「相承」し、より社会に資する団体たるべく「精にして雑ならず、進んで退かず」の想いを旨に、正しく会務運営に精進いたす所存でございます。諸大徳諸先輩の皆様、会員諸禅兄におかれましては、当会に対して旧倍の御法援を賜りますれば幸甚でございます。文尾失礼ながら、皆様方の一層の法運隆昌と法体堅固を祈念申し上げまして、創立40周年記念式典・シンポジウム・祝賀会・記念講演の御礼といたします。

全国曹洞宗青年会
40周年記念事業実行委員会
委員長　荒木道宗　稽首

近代の高僧が語った。

『曹洞宗近代名僧法話集 全七巻』刊行開始！



通夜説教、法事の際の法話、寺院行持における法話など、私たち青年宗侶にとっても、法話という布教教化手段は欠くことのできないものです。その法話を研鑽する機会として、布教師養成所、管区や宗務所、教区単位での布教講習など、宗門には数多くの「法話を研鑽する機会」がありますが、近代を代表する高僧の法話に触れる機会は必ずしも多くはないのではないでしょうか？
本法話集に収録されている法話１７２編には、信仰的信念と禅機の香りの高いものが多く、また現在では貴重となった資料が多く収録されています。その多くが、明治の先徳によるものであり、骨太かつ近代化を模索する視野を含み、現代宗門に対する示唆に富んだものです。徒に新奇性や現代性を追い求めるのではなく、「温故知新」の心で、先徳たちの「声」に触れてみては如何でしょうか？

曹洞宗近代名僧法話集　全七巻
【仕様・体裁(予定)】
A5版上製・紙クロス装・函入り
267頁から436頁
各巻12,000円(税抜)《分売可》
全7巻セット特別価格 70,000円(税抜)
【発行】
株式会社 同朋舎メディアプラン 企画開発部
〒101-0061
東京都千代田区三崎町2-20-4 八木ビル4F
TEL 0120-863-973　FAX 03-5276-0837

第一巻　寺院行持をどう語ったか（刊行済）
第二巻　祖師忌の法話～近代禅僧が語る～（刊行済）
第三巻　近代の高僧は何を語ったか
第四巻　生死と向き合う禅僧のことば
第五巻　禅と「道」を語る
第六巻　禅的創作・文学の花開く
第七巻　禅問答の面白味

全国曹洞宗青年会の活動は皆さまの賛助費に支えられております。
この度もご協力いただき誠に有難うございました。

461　正法寺　様

●宮城県
10　瀧澤寺　様
102　吉祥寺　様
141　自照院　様
153　徳本寺　様
271　願成寺　様
291　廣渕寺　様
301　洞源院　様
327　観音寺　様

●岩手県
13　長善寺　様
25　寶積寺　様
54　龍岩寺　様
111　西泉寺　様
122　石洞寺　様
123　寶城寺　様
149　耕雲院　様
158　願成寺　様
174　西光寺　様
226　長林寺　様
245　常楽寺　様
247　正福寺　様
276　慈眼寺　様

●青森県
15　梅林寺　様
74　浮木寺　様
84　凉雲院　様
100　澄月寺　様
105　東昌寺　様
115　心月寺　様

●山形県第１
241　福昌寺　様

●山形県第２
344　蔵高院　様

●山形県第３
468　宗傳寺　様

●秋田県
17　補陀寺　様
22　源正寺　様
76　蔵堅寺　様
85　寶圓寺　様
95　蔵昌寺　様
181　黄龍寺　様
184　護昌寺　様
203　瑞雲寺　様
206　松雲寺　様
243　寶蔵寺　様
252　長泉寺　様
313　立昌寺　様
321　鏡得寺　様
323　恩徳寺　様
326　圓福寺　様

●北海道第１
78　正林寺　様
88　玉宝寺　様
94　曹源寺　様
96　観音寺　様
257　高台寺　様
371　高正寺　様

●北海道第２
181　永祥寺　様
279　西乘寺　様
299　永福寺　様
338　大仙寺　様
346　永光寺　様

●北海道第３
152　長林寺　様
195　定光寺　様
203　西来寺　様

ボランティア基金感謝録

平成26年４／１～６／30取扱い分

東京都　青松寺　様
東京都　観蔵院　様
東京都　俊朝寺　様
東京都　大林院　様
神奈川県　観音寺　様
神奈川県　正翁寺　様
神奈川県　本覚寺　様
埼玉県　嶺雲寺　様
埼玉県　廣徳院　様
埼玉県　慈眼寺　様
栃木県　本光寺　様
茨城県　龍泉院　様
茨城県　龍心寺　様
千葉県　慶林寺　様
千葉県　流山寺　様
千葉県　満蔵寺　様
千葉県　宗胤寺　様
千葉県　總寧寺　様
山梨県　宗禅寺　様
静岡県　孤雲寺　様
静岡県　盤脚院　様
静岡県　龍谷寺　様
静岡県　定林寺・縁遊会 様
静岡県　養勝寺　様
静岡県　正泉寺　様
静岡県　竹林寺　様
静岡県　永昌寺　様
静岡県　普門院　様
静岡県　大雲院　様
静岡県　正法寺　様
静岡県　林泉寺　様
静岡県　天林寺　様
静岡県　龍雲寺　様
愛知県　神龍寺　様
愛知県　高雲寺　様
愛知県　永澤寺　様
愛知県　不傳寺　様
愛知県　霊岩寺　様
愛知県　吉祥寺　様
愛知県　東昌寺　様
愛知県　源光寺　様
岐阜県　善応寺　様
三重県　養泉寺　様
三重県　長禅寺　様
三重県　劔光寺　様
三重県　宝泉院　様
三重県　大智院　様
三重県　地蔵院　様
三重県　常安寺　様
京都府　春現寺　様
京都府　禅福寺　様
京都府　善光寺　様
京都府　円覚寺　様
大阪府　實相院　様
大阪府　法華寺　様
兵庫県　臨川寺　様
兵庫県　長福寺　様
兵庫県　谷松寺　様
兵庫県　満福寺　様
兵庫県　向榮寺　様
岡山県　済渡寺　様
岡山県　円通寺　様
広島県　福善寺　様
広島県　善興寺　様
広島県　香積寺　様
広島県　中興寺　様
広島県　功徳寺　様
山口県　広福寺　様
山口県　山口県曹洞宗青年会 様
鳥取県　正寿寺　様
鳥取県　願成寺　様
島根県　雲松寺　様
島根県　清光院　様
島根県　自徳庵　様
福岡県　報恩寺　様
福岡県　太養院　様
福岡県　不動寺　様
福岡県　天徳寺　様
大分県　勝光寺　様
佐賀県　種福寺　様
佐賀県　医王寺　様
熊本県　曹洞宗熊本県第一宗務所青年会・一青会　様
鹿児島県　紘昭寺　様
長野県　陽泰寺護寺会・婦人会　様
長野県　龍雲寺　様
長野県　城光院　様
新潟県　曹源寺　様
新潟県　庄川寺　様
福島県　正法寺　様
福島県　小国寺　様
福島県　龍台寺　様
宮城県　自照院　様
宮城県　瀧澤寺　様
宮城県　観音寺　様
岩手県　常楽寺　様
岩手県　番澤廣円　様
岩手県　長善寺　様
岩手県　寶積寺　様
岩手県　願成寺　様
青森県　心月寺　様
青森県　澄月寺　様
青森県　浮木寺　様
青森県　大乘寺　様
青森県　凉雲院　様
山形県　宗傳寺　様
山形県　蔵高寺　様
秋田県　蔵堅寺　様
秋田県　蔵昌寺　様
秋田県　補陀寺　様
秋田県　松雲寺　様
秋田県　寶蔵寺　様
秋田県　瑞雲寺　様
秋田県　長泉寺　様
北海道　高台寺　様
北海道　長林寺　様
北海道　大禅寺　様
北海道　北海道第3宗務所大会 寄付　様
平成26年 全国梅花大会 募金　様

賛助費浄納御芳名簿

平成26年 4／1～6／30 取扱い分

●東京都
3 俊朝寺 様
17 龍澤寺 様
51 泉岳寺 様
110 松林寺 様
160 喜運寺 様
177 清巖寺 様
179 大林院 様
180 正覺寺 様
252 観蔵院 様
287 龍見寺 様
356 宝蔵寺 様
駒澤大学高等学校
鈴木純行 様

●神奈川県第２
1 本覺寺 様
10 随流院 様
14 傳心寺 様
16 正観寺 様
81 貞昌院 様
83 正翁寺 様
126 常泉寺 様
127 寿昌寺 様
383 観音寺 様

●埼玉県第１
6 法性寺 様
92 浄山寺 様
110 香林寺 様
185 嶺雲寺 様
190 廣德院 様
416 昌福寺 様

●埼玉県第２
203 養壽院 様
258 能仁寺 様
487 慈眼寺 様

●群馬県
194 善宗寺 様
276 陽雲寺 様

●栃木県
1 成高寺 様
43 東光寺 様
97 法性寺 様
103 光真寺 様
167 興福寺 様
175 本光寺 様

●茨城県
13 龍泉院 様
166 東光寺 様
182 龍心寺 様
197 長龍寺 様

●千葉県
1 總寧寺 様
2 宗胤寺 様
7 満蔵寺 様
8 重俊院 様
10 流山寺 様
27 新井寺 様
29 慶林寺 様
70 昌福寺 様
76 全宅寺 様
94 長興院 様
95 寶應寺 様
119 森巖寺 様
159 寶聚院 様
185 勢國寺 様
212 真光寺 様

●山梨県
45 永昌院 様
57 宗禅寺 様
115 海潮院 様
392 慈照寺 様
539 清光寺 様

●静岡県第１
9 然正院 様
189 永明寺 様
421 盤脚院 様
464 正泉寺 様
495 普門院 様
501 養德寺 様

●静岡県第２
228 耕月寺 様
259 常雲寺 様
267 修善寺 様
329 永昌寺 様
332 龍雲寺 様
362 福泉寺 様

●静岡県第３
612 久翁寺 様
634 光明院 様
676 孤雲寺 様
766 正法寺 様
767 大雲院 様
831 正林寺 様
1208 法雲寺 様

●静岡県第４
1025 龍谷寺 様
1095 天林寺 様
1101 光雲寺 様
1122 林泉寺 様
1129 随縁寺 様
1140 竹林寺 様

●愛知県第１
7 全香寺 様
17 光明院 様
18 大運寺 様
88 修善寺 様
133 瑞泉寺 様
143 長福寺 様
200 日光寺 様
212 不傳寺 様
252 慈眼寺 様
261 薬師寺 様
292 高雲寺 様
313 長松寺 様
607 林宗寺 様
629 神龍寺 様
635 永澤寺 様
824 東昌寺 様
1119 松月寺 様
1163 秋葉寺 様

●愛知県第２
684 花井寺 様
915 大栄寺 様
991 慈雲寺 様

●愛知県第３
438 吉祥寺 様

●岐阜県
80 龍泰寺 様
83 善応寺 様
102 桂昌寺 様
162 清楽寺 様
189 久昌寺 様
190 長久寺 様
223 大覚寺 様

●三重県第１
15 養泉寺 様
24 一心院 様
36 法安寺 様
83 凉泉寺 様
114 海禅寺 様
144 福源寺 様
203 等観寺 様
276 地蔵院 様
278 大智院 様
284 常安寺 様
285 玉泉寺 様
316 劔光寺 様
448 地蔵院 様

●三重県第２
391 永明寺 様
408 東正寺 様

●滋賀県
113 德圓寺 様

●京都府
36 圓蔵院 様
70 護国寺 様
161 禅福寺 様
236 善光寺 様
334 海蔵寺 様
389 萬福寺 様

●大阪府
18 大倫寺 様
26 天德寺 様
28 法華寺 様
98 吉祥院 様
104 拾翠寺 様
107 實相院 様

●兵庫県第１
2 満福寺 様
287 向榮寺 様
307 福林寺 様
315 長松寺 様
338 勝龍寺 様
340 永春寺 様

●兵庫県第２
134 谷松寺 様
173 瑞雲寺 様
217 長福寺 様
228 豊楽寺 様
270 臨川寺 様

●岡山県
1 円通寺 様
28 洞松寺 様
31 瑞雲寺 様
131 済渡寺 様

●広島県
1 国泰寺 様
46 雙照院 様
55 米山寺 様
60 香積寺 様
62 善興寺 様
76 長福寺 様
95 泉龍寺 様
100 中興寺 様
120 寶泉寺 様
146 福善寺 様
177 功德寺 様

●山口県
145 久屋寺 様
172 広福寺 様
229 妙栄寺 様

●鳥取県
3 昌福寺 様
58 正寿寺 様
124 願成寺 様
134 精明寺 様
159 大祥寺 様

●島根県第１
231 岩瀧寺 様
304 自德庵 様

●島根県第２
6 善福寺 様
18 萬松院 様
54 雲松寺 様
59 清光院 様
60 桐岳寺 様
119 常光寺 様
121 法海寺 様
140 法蔵寺 様

●高知県
23 予岳寺 様

●愛媛県
18 陽春院 様
104 西林寺 様
135 秀禅寺 様
146 興雲寺 様
164 城慶寺 様

●福岡県
28 桂木寺 様
98 不動寺 様
117 長安寺 様
158 報恩寺 様

●大分県
16 勝光寺 様

●長崎県第１
8 圓福寺 様
22 圓通寺 様
43 東光寺 様
78 宝泉寺 様
144 護国寺 様

●佐賀県
70 種福寺 様
136 医王寺 様
172 医王寺 様

●宮崎県
54 善栖寺 様

●鹿児島県
14 紘昭寺 様

●長野県第１
6 永谷寺 様
227 岩松院 様
300 威德院 様
306 城光院 様
587 観音庵 様

●長野県第２
375 龍雲寺 様
389 宗福寺 様
419 宗德寺 様

●福井県
291 福聚寺 様

●富山県
156 善林寺 様

●新潟県第１
341 雙善寺 様
350 定光寺 様
358 円光寺 様
362 長禅寺 様
368 正通寺 様
384 庄川寺 様
393 曹源寺 様
445 永林寺 様
475 天昌寺 様
477 龍泉院 様
496 長樂寺 様
500 観泉院 様

●新潟県第２
681 総源寺 様
710 晃照寺 様

●新潟県第３
530 花栄寺 様

●新潟県第４
1 龍雲寺 様
23 観音寺 様
36 吉祥寺 様
110 鑑洞寺 様
208 福樂寺 様

●福島県
74 洞雲寺 様
94 松蔵寺 様
101 成林寺 様
103 小国寺 様
104 成願寺 様
110 龍德寺 様
112 耕雲寺 様
121 長泉寺 様
226 常隆寺 様
246 長德寺 様
263 慶德寺 様
318 安穏寺 様
401 常楽寺 様

「大本山總持寺二祖峨山韶碩禅師650回大遠忌記念 峨山道ウォークツアー」参加レポート

平成26年5月15日（木）・16日（金）の2日間、峨山禅師の行跡をたどるウォークツアーが開催されました。（イベント企画：大本山總持寺大遠忌局、後援：大本山總持寺・大本山總持寺祖院・永光寺、協力：石川県輪島市、旅行主催：東武トラベル横浜支店）

このツアーは、峨山禅師が、羽咋（はくい）の永光寺から輪島市の大本山總持寺祖院まで歩かれた道「峨山道」を歩くもの。峨山禅師は永光寺の住職と總持寺の住職を兼ねており、永光寺の朝課をつとめられた後に、13里（約52キロ）の山道を總持寺の朝課に間に合うように歩かれ、そのために總持寺ではゆっくりと読経（大悲真読）したという言い伝えが残っています。今回は、その一部である約10キロを歩かせていただきました。

1日目は午前9時に金沢駅西口に集合。バスには、大遠忌局の方がたはもちろんのこと、一般檀信徒や、地元石川県の宗侶も参加。全曹青からは、櫻井会長・岩崎副会長・道林庶務・長岡広報委員長・西古広報委員の5人が参加させていただきました。30人を超える参加者を乗せた2台のバスがまず向かったのが、石川県河北郡津幡町瓜生の「峨山園」。「峨山園」は、峨山禅師の誕生地である瓜生に大正14年に開設された公園で、当時の羽咋郡河合谷村（現、河北郡津幡町）の助役であった荒木剛氏が地元の曹洞宗関係者などと協力して「峨山禅師生誕地」顕彰碑を建立し、その周辺一帯を整備したものです。毎年6月23日には、禅師の降誕会法要が、地域の方がたや曹洞宗関係者などおよそ２００人が参加して修行されるそうです。

地域の方がたに長年守られた、静謐な公園にお参りした後、バスに再び乗り、いよいよ羽咋の永光寺を目指しました。

永光寺に到着し、輪島市職員の方がたと合流の上昼食をいただいた後、法堂において、永光寺御住職の屋敷智乗老師を導師として五老峰ならびに峨山禅師の拝登諷経を勤め、ウォークツアー参加者の道中安全を祈願しました。

法要の後、御住職から永光寺の概略と峨山道の由来をお教えいただきいよいよ、ウォークの開始です。

ウォークの参加者には、菅傘と杖が配られ、否が応でも気分は高まります。

永光寺で最も古い建物である伝燈院（一般のお寺の開山堂にあたる）にお参りをし、さらに上を目指します。

伝燈院から数分の場所に、天童如浄禅師、永平道元禅師、孤雲懐奘禅師、徹通義介禅師、瑩山紹瑾禅師の5人の祖師方の遺品等が埋納されている「五老峰」がありました。正伝の仏法をお伝えくださった祖師方の存在をより身近に感じ、また身の引き締まる思いでお参りをし、いよいよ一行は峨山道へと入っていきます。

峨山道は、地元羽咋市や輪島市の皆さんによって、深山幽谷でありながらも大変歩きやすく整備され、快適に歩くことができました。何より、配っていただいた菅笠が雨除けとなり、降雨の中でも頭や顔が濡れることなく大変助かりました。

途中、古和秀水（こわしゅうど）と呼ばれる場所で天然の湧水をいただいて喉をうるおし、輪島市役所観光課の皆さんが雨にも関わらず用意してくださったお茶やコーヒーでひと休み入れながらの約2時間かけてのウォークの結果、午後5時に目的地である大本山總持寺祖院に到着。参加者一同で記念写真を撮影しました。

總持寺祖院に到着すると、門前の方がたによるお抹茶の接待もあり、その心遣いに大変感銘を受けました。

夕食は、伝統文化施設「旧酒井邸」で「門前御膳」をいただき、1日目の行事が終わ

りました。

2日目は、午前5時起床。着替え等を済ませ、法堂において朝課を共におつとめしました。朝食のお粥をいただき、午前8時半山門集合。まず徒歩で向かったのが、峨山禅師の墓所がある「亀山墓所」。

参拝の後は、昨夜夕食をいただいた「旧酒井邸」の隣にある「禅の里交流館」へ。總持寺と深く結びついている門前の人々の様子や、總持寺の歴史、年中行事などがパネルや映像、また実際使用していたものなどを展示してわかりやすく紹介してありました。

總持寺祖院法堂に戻り、記念式典が行われました。

まず、門前の方がたが禅師様をお迎えするときに披露するという「とどろ節」を鑑賞。法堂に響き渡る音と息のあった踊りに参加者一同、拍手喝采でした。

その後、祖院監院・今村源宗老師を導師に法要をおつとめし、参加者一同法堂正面に進み、瑩山禅師・峨山禅師に対し焼香礼拝を行いました。

法要後、今村老師より峨山禅師についてお話をいただきました。2代目の重要さ、後を継ぐことの大変さなどを身近な話題を織り交ぜながらわかりやすくお話下さいました。「皆さまが歩きながら身体で感じたもの、祖師に通じる〝心〟を経験したことで、この峨山道ウォークツアーの本義である峨山禅師の想いがより浸透することができるようになり、更には大遠忌の掲げる「相承」にきっと繋がることでしょう」とのお言葉に、自らが感じた峨山禅師の「想い」を広く伝えていくことの大切さを痛感いたしました。

終わって、諸堂拝観となりましたが、平成19年の能登半島地震の爪痕がいまだ残っている様子に復興の難しさを感じました。

その後、昼食では精進料理をいただき、總持寺祖院をあとにしました。

今回の峨山道ウォークツアーを通し、峨山禅師の行跡の一端を、より実感をもって知ることができました。何より、お世話くださった地元輪島市・羽咋市の皆さまのおもてなしの心には感銘を受けました。大遠忌奉賛として計画されている「全国徒弟研修会 with 国際こども禅のつどい」を開催し、峨山禅師の遺徳を相承していこうとの想いを強くした2日間の得難い経験でした。

報告／広報委員長　長岡俊成
広報委員　西古孝志

マレーシア和太鼓公演報告

三重県曹洞宗青年会で結成された和太鼓集団『鼓司（くす）』は全日本仏教青年会（以下、全日仏青）の推薦をいただき、平成26年5月17日にマレーシアで開催されたセランゴール州WESAK（満月祭典）併催『国際仏教公演芸術祭』（INTERNATIONAL BUDDHIST PERFORMING ARTS FESTIVAL）に出演しました。

『鼓司』は和太鼓による布教活動をテーマに発足から8年が経過し、主に県内寺院での晋山式や各地宗務所で開催される催事などで出演しております。今回、海外に招かれての大きな舞台は初めての経験であり、正直なところ不安もありましたが、全日仏青直前理事長兼国際委員長・村山博雅師（全曹青顧問）、全日仏青理事・大久保厚志師（全曹青国際特別委員会事務局長）、全日仏青事務局次長・栖川直道師（全曹青国際特別委員）に現地との調整やサポートを担当していただき、又、マレーシア公演に向けての演出・出演を、『鼓司』の指導者でプロ和太鼓奏者でもある服部博之氏に全面協力いただける事となり、日本から太鼓を運び、総勢11人の『鼓司』メンバーはクアラルンプール国際空港に無事到着しました。

今回の演目は2曲で構成され、1曲目は『正法への錫杖』という、団扇太鼓と錫杖を使い行脚修行する僧侶の心境や旅路の情景を表現。2曲目の『悟りの岸へ　～雲の行くまま水の流るるままに～』は僧堂での禅修行をダイナミックに表現するオリジナル曲です。マレーシア公演に向けて練習している際、服部氏より「今回の海外公演は日本の仏教や曹洞宗を紹介する絶好の機会です。皆さんが普段法要などで行っている所作進退を改めて細かく確認し、日本の〝禅〟や〝文化〟というものを舞台で表現して下さい」とアドバイスを受けました。そして、そのアドバイスを元に、海外の方へどのようにしたら伝わる演奏が出来るのか、手のマメを潰し参究しながら、『流汗悟道』の精神で稽古したのが成功に繋がったのだと感じました。演奏後、満員の会場から割れんばかりの拍手喝采・スタンディングオベーションを受けた時にはメンバーも感無量で涙を流しました。実は、今年の芸術祭は、イスラム教が国教とされるマレーシアであるにも関わらず、セランゴール州政府の全面的協力の上開催された初めての祭典であったとのことでした。その社会的意味合いも含み、私たち日本仏教者の存在が、感動という言葉とともにマレーシア国内新聞各紙に取り上げていただけたことも追記いたします。

この度の日程では、他に3箇所で演奏させていただき、沢山の方がたに日本の青年僧侶や曹洞宗の法式をご覧いただくご縁を頂戴しました。その中でも印象的だったのは、世界仏教徒青年連盟（WFBY）センターであり、活発なマレーシア仏教協会であるBGF（Buddhist Gem Fellowship）創立25周年記念・新センター落慶記念式典でした。新しく3階建てのビルを建築し、仏陀を礼

拝するホールは勿論ですが、子どもたちの教育施設やイベントホールを完備した施設です。

BGFの副代表でもあり我々と同世代のMun Yee Wong氏は、「このホールで鼓司が最初に演奏してくれて本当に有り難く思います。我々はこれからも日本仏教と交流を深め、共に仏陀を信仰する仲間として精進していきましょう」と瞳を輝かせながら話してくれました。

今後、経済のみならず文化や宗教の分野でもアジア諸国との交流が活発になると思われます。情報通信技術が発達した現代では個人間の連絡も容易になり、英語を共通言語にコミュニケーションが構築されていきます。この流れは日本の伝統教団にいる我々にとって、改めて自身の信仰を見つめなおす機縁になるのではないかと感じます。各宗派の先達者がたゆみない努力により承継されてきたアジア仏教交流が着実に実を結び、華開こうとしている今こそ具体的な交流活動と未来への人材育成が必要であります。

今回、マレーシアでの和太鼓演奏はこれから深まっていく交流の一歩になりました。この場を借りまして滞在中大変お世話になりましたWFBY会長代行・Loka Ng Sai Kai氏、BGFスタッフの皆様へ心よりお礼申し上げます。

報告／事務局長　倉島隆行
三重県曹洞宗青年会

曹洞宗僧侶の有志による電話相談窓口です

ひとりぼっちと思わないで…
どんなことでもお電話で
ご相談下さい。

TEL 080-1546-7464
TEL 080-1547-5646
毎週日曜 22:00 ～ 24:00
※相談料は無料（通話料は必要です）

両大本山御用達
梅花流法具販売指定店

法衣・装束・荘厳・神仏具・贈答用記念品

株式会社 梅金商店

（全国曹洞宗法衣同業会会員）

〈本　社〉〒460-0011 名古屋市中区大須三丁目39番33号
（大須交差点東北側）
TEL（052）241－0901（代表） FAX（052）241－1904

加盟団体活動レポート

曹洞宗石川県青年会
緑蔭禅のつどい第50回記念大会
『お寺 college 祈―いのり―』

曹洞宗石川県青年会は平成26年5月18日石川県金沢市「金沢歌劇座」で緑蔭禅のつどい第50回記念大会『お寺 college 祈―いのり―』を開催し、会場内に各体験コーナーを設け仏教や禅に触れていただきました。

かつて「お寺」は地域の文化や教育・福祉の拠点としてコミュニティーの中心でした。しかし、お寺と地域の人々とのつながりが希薄になり、その役割は限定されたものとなりつつあります。

そこで、石川県宗務所のご指導のもと議論を重ね、「お寺に人が来ないと嘆く前に、和尚が街へ出てみよう」と今回の事業の実施に至りました。祖語にあります「古教照心」とかけまして「故郷照心」をテーマとし、地域に住む人々にお寺の良さをもっと知ってもらうことで、お寺の存在を身近に感じていただき、更には地域の文化的な発展に貢献することを目指しました。

当日は、坐禅・古式体操、写経、禅茶所、匂袋作り体験、パネル展等の他、石川県宗務所婦人会によるバザー、又、笑いヨガ、似顔絵コーナー等幅広い年齢層に満足いただける体験教室を設えました。

また、東日本大震災犠牲者への追悼の祈りとして3・11観音を表現して慰霊と復興への思いを載せ、岩手県山田町龍泉寺御住職・石ヶ森桂山師にご講演いただきました。

来る9月14日に大本山總持寺祖院で『緑蔭禅のつどい第50回記念大会～願い～』を開催し精進料理教室の他、東日本大震災物故者慰霊法要、復興祈願法要を厳修し社会の平穏を祈願いたします。

今後も一人でも多くの方に禅を親しんでいただけるよう精進して参ります。

報告／曹洞宗石川県青年会　細川哲心

第27回曹洞宗北海道青年会岩見沢大会

6月6日、北海道岩見沢市平安閣で「第27回曹洞宗北海道青年会岩見沢大会」が開催されました。前日は初夏の北海道では珍しく、気温30度を超える真夏日となっておりましたが、当日は北海道らしく過ごしやすい気候となりました。

正午から受付を始め、午後1時30分より記念式典。式典では大会長である北海道第2宗務所青年会会長の小原輝昭師より「今大会は『今自分たちに必要とされているものは何なのか』を考え、同じ志を持つ宗侶として、経験や体験を積極的に交換する親睦の場としたい」との挨拶がありました。

午後3時からは、評論家・仏教家として様々なメディアでご活躍されている宮崎哲弥氏を特別講師にお迎えして、「宮崎哲弥

と仏教の今とこれからを語ろう」というテーマで記念講演が行われました。「語ろう」というテーマに則り、全員が○と×の札を手にし、宮崎氏の意見や質問に全員で札を上げるという形式でした。熱い意見が飛び交う等、来場された方がたは積極的に参加しておりました。

午後5時からは定期総会を行い、午後6時から懇親会。広大な北海道では宗務所や教区が違うとなかなか顔を合わせる機会がありませんので、久しぶりの再会に終始笑顔の絶えない様子でした。2年に一度の大変な行事であったと思いますが、116人の参加者が集まり、大円成で終えることができました。次期開催宗務所は一番会員数が多い北海道第一宗務所となりますので、また盛大に行われることと思います。

報告／広報委員　加藤芳憲

第44回九州曹洞宗青年会総会、鹿児島大会

第44回九州曹洞宗青年会総会、鹿児島大会が鹿児島市内で多数の出席をいただき無事円成いたしました。ご出席いただきました全国曹洞宗青年会会長・櫻井尚孝師を始め九州各県の青年会会長様、事務局様、会員の皆さまには心よりお礼申し上げます。

また、講師に歌手のＡＩさんのお母様であるバーバラ植村先生をお迎えし、ご自身の体験をもとに海外と日本の文化・言葉の違いに戸惑いながらも、幸せはどこに住むかではなく、自分で作るものだと信じ、日本の文化を学ばれたことなどをご講演いただきました。前向きに生きる大切さ、「心配、できない」と思う気持ちは捨ててしまい、「大丈夫、できる、幸せ」の言葉を自分自身はもとより他の人や子どもにも言い聞かせることの素晴らしさを伝えて下さいました。

九州曹洞宗青年会は各県青年会の活動報告、情報交換、機関紙の発行、球技大会を通じた交流により「九州は1つ」のスローガンのもと活動しております。また今年度には「日めくり伝道句集～命の力」の発行を予定しております。これは会員皆様の協力を得ましてゼロから作り上げたものです。各種報道を見ましても悲しい事柄ばかりのこんな今だからこそ、「日めくり伝道句集」をめくっていただき、毎日新しい言葉に触れて生きる力を取り戻してほしいとの気持ちが込められたものです。ぜひ手に取っていただき皆様のご協力をお願い申しあげます。

お願いばかりになりますが、これからも九州曹洞宗青年会へのご協力をお願いいたします。

報告／九州曹洞宗青年会広報　本田裕樹

SOUSEI Webアンケート企画

第2回「坐禅会について」

アンケート結果

回答者について
宗侶　28人　　一般　25人
※今回は、おおよそ均等になる。

男女比
宗侶　　男性100%　女性　0%
一般　　男性　68%　女性32%
※やはり、宗侶の女性への訴求力を高める必要性がある。

開催したことが有りますか?(宗侶)
している54%　　したい25%
している+したい=79%
→関心の高さが見て取れる。
予定なし21%
→理由トップは、檀務が忙しい33%

行ったことがありますか?(一般)
ある　60%
→もう一度行きたい→74%
その理由：落ち着きを取り戻し、自己と向き合うため。
ない　40%
→その理由：少し怖いイメージがあるため。

運営する上での悩み(宗侶)
参加者が固定化する。
→メンバーが固定化することによって、他の方が参加しづらくなる。(参加者の中に指導役の様な方がでてくる。)

参加した後に、行きたくないと思った理由(一般)
・本格的な坐禅を指導しようとされていますが、一般人はそこまで求めていないと思う。
・坐禅中の法話は、一方的でただ坐ることへの妨げになると思う。

坐禅会の頻度(宗侶)
月一回45%　　年に数回27%
週一回14%

開始する時間帯(宗侶)
早朝32%　　午前32%
午後18%　　夜間18%

参加しやすい時間帯(一般)
早朝24%　　午前28%
午後24%　　夜間24%
※午後や夜間というニーズも宗侶が思っているよりも高くある。

参加しやすい開催時間
1時間68%　　3時間20%
※短時間で終わる坐禅会が好まれるようだ。

参加しやすい交通手段
電車32%　徒歩18%　自転車18%
自家用車14%　バス11%

坐禅会に重視すること
自宅から近いこと18%
時間帯・曜日17%
参加費が無料もしくは安いこと15%
開催場所が寺14%
初心者向けの指導12%
僧侶の人柄や定評10%
※特に都市部では移動時間が短いことが求められ、自家用車を使って坐禅会に参加する方はまれなようだ。

併催してほしいイベント
法話会17%　　料理教室17%
困り事相談11%　坐禅会のみ11%
ヨガ9%
※併催するイベントは坐禅会に参加するかどうかを判断する重要度は低いが、併催するイベントを考えるのであれば、法話会や料理教室となる。

参加している人数(宗侶)
6 ～ 10人→36%　5人以下→32%
11 ～ 20人→18%　21 ～ 30人14%

参加しやすい人数(一般)
11 ～ 20人→32%　1人でも大丈夫→24%
31人以上→20%　6 ～ 10人16%
※もう5人の差。6 ～ 10人というのは、とても来づらい人数のようだ。

坐禅会を行なっている地域の人口
～ 5,000人32%　～ 10,000人14%
～ 100,000人41%　100,000以上14%

回答者の居住地域
東京都28%　長野県20%　青森県16%
・・・

告知方法(宗侶)
直接話す22%　寺報20%　チラシ13%
ポスター 13%　インターネット11%

告知情報の取得方法(一般)
直接聞いた35%　ポスター看板24%
インターネット16%
檀家さん世話人さんから聞いた12%
Facebook等のSNS4%
※この点が、参加者の固定化の理由ではないだろうか?ポスターやインターネットでの告知を視野に入れると様々な方にお越しいただけるようだ。情報取得方法のチラシは0%で、他のチラシに紛れてしまう可能性が考えられる。

坐禅会を開く意味は何ですか?(宗侶)
コミュニケーションの場45%
布教活動として37%

まとめ

今回もアンケートにご協力くださりありがとうございました。今回のアンケートの目的は、実際に坐禅会を行っている、もしくは、これから坐禅会を開こうと考えている宗侶と、実際参加された、もしくは、これから坐禅会に参加されようとしている一般の方のそれぞれのイメージの差を浮き彫りにすることでした。

坐禅会に参加したことのない一般の方の理由は、坐禅に対する恐怖感が原因のようです。警策が痛いというイメージや、警策は合図をしなければ入れられることは無いということを知らない点などがあげられます。

また、坐禅会を企画する際、気負いすぎるあまりに何時間も企画しがちですが、1時間程度で終わるものでないと、最初は参加しづらいようです。まずは1時間程度の坐禅会から始めてみるのが、一般の方との坐禅を通した接点を作る上でも大切ではないでしょうか?

集計・文／広報副委員長　岡本真宰
広報特別委員　柳沢隆徳

全曹青40周年
～全曹青の足跡を訪ねて（5）

全曹青は、1975年に発足し、今期には40周年を迎えます。このコーナーは、記念の節目を迎えるにあたって、改めて全曹青の成り立ちや規模、その想いや歴史を探っていく連載です。

■第五期の発足とテーマ「食」

昭和58年度（1983年～84年）の第一回総会で、櫻井孝順会長を選出し第五期全曹青がスタートした。

『曹青通信』で櫻井会長を「新会長は典座和尚である（原文ママ）」と紹介しているように、先ずは「食」というテーマを掲げ、総会当日の5月13日に前期禅のつどい中央研修会を開催。講師にNHK家庭部次長の内林達夫氏を迎え、ドキュメント「子どもの食卓」と題し、前年NHKが放送した特集番組の内容を基に講演。当時社会問題となっていた子ども達の心と体のアンバランス、青少年の非行化についての一因に食生活の乱れがあることを、具体的なインタビューや調査資料（国内外の11～12才児童計3，379人を対象に行ったもの。当時の『曹青通信』29号には、3ページの図入りで調査資料が掲載されている）と、子ども達が置かれている環境を軸にご説明いただいた。

年が明けて昭和59年、前年の流れを受けて行われた後期禅の集い中央研修会では、東北大会（1月、福島県）が「食をみなおす」、近畿大会（2月、京都府）が「これでいいのか　あなたの食生活」、関東大会（3月、神奈川県）が「お母さんと一緒　ちかいのつどい」と、3会場ともに「食」「子ども達の環境」を共通テーマとして開催された。東北大会メイン講師の中野東禅老師の資料とともに記された「食は人間存在の根底を明し、人間を解脱させる実践である（原文ママ）」という提示は、時代を超えて僧侶は勿論の事、一般の方がたにも伝えていかなければならないことではないだろうか。

話は飛躍するが、筆者が知る限りここ数年の『SOUSEI』の中で一番反響が大きかったものの一つに、159号（2012年11月発行、第19期）の特集「料理家・辰巳芳子さんに伺う。これからの食と寺院」があると記憶している。「人はなぜ食べなければならないのか」という問いは簡単なようでいて、実に奥深く、それぞれの食に対する考え方や姿勢を浮き彫りにする大きな問いに感じる。かつて社会問題となった前述の80年代の「食」は、約30年を経た今になっても改善されたとは言い難い。現在、40周年記念事業の一環として「味来食堂」が開催されているが、食材の命を料理すること、そして食べることを通じて、参加された方がたにとって自らの命の処し方を学ぶ場となれば幸いである。そういった場を提供し、伝えていくことも僧侶の存在意義のひとつとなるのではないだろうか。

■十周年記念事業

昭和59年度（1984年～85年）に全曹青が十周年を迎えるにあたり、数々の記念特別事業が開催された。

メイン事業として、東京小田急デパート新宿店を会場に昭和59年10月12日より12日間に亘って「ほほえみの石仏展」が開催された。読売新聞社主催・文化庁後援の形を取り、全国の野仏様に東京へお集まりいただき展示するという非常に大規模な企画であり、北は福島県から南は鹿児島県、永平寺・一乗谷を含め、全国から170余りの石仏・石神様がたが一堂に会した。地元住民・教育委員会・文化財保護委員の方がたのご協力とご理解無しには成り立たず、また両大本山、多くの地方寺院の運搬等へのご助力あっての無事円成となった。

また、同年8月22日より25日にかけて開催された「洋上子どもセミナー」では、200人を超える参加者が参加。大阪より出航し片道34時間の船旅の中、セミナーやゲームなど研修を行いながら沖縄に到着。観光ツアーの後、最終日には南部戦跡にある摩文仁ヶ丘平和祈念堂で施食法要。全員で献香し戦争犠牲者の慰霊を行った。不慣れな船旅に加え、食事を70人ずつ3交代でいただくなど運営は大変だったが、随喜青年僧侶の尽力もあって全行程を全員が無事円成した。

当時刊行された『ほほえみの石仏』

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

第五期は、社会問題に報道側からの問題提起も踏まえ回数を掛けて学習するとともに、初めての大きな節目である十周年を迎えての大事業がありました。当時の記事を拝察する度に、運営側としての全曹青・地方曹青の皆様のご尽力がなければ為し得なかったものではなかったかと痛感いたします。

文／広報副委員長　宮入真道

災害復興支援部 ニュースレター

日頃より、全国曹洞宗青年会（以下、全曹青）の災害復興支援活動等に関しまして、各曹青会並びに宗務庁・宗務所、宗門内外の多くの皆様にご支援・ご協力賜り、心より感謝申し上げます。

今期も残り一年を切りました。全曹青特別委員会「災害復興支援部」では、第20期スローガン「繋がる想いが未来を拓く」に基づき、「全曹青ボランティア憲章」の想いを全国の会員に繋ぎ、曹洞宗東日本大震災災害対策本部復興支援室分室（以下、復興支援室分室）と連携し、東北各地の復興支援のみならず、今後起こりうる災害に備え防災・減災を目指し、お互いが支え合う社会の実現に向けて引き続き活動して参ります。

東北各地では余震が続き、原発事故に起因する問題も解決には程遠い状況ですが、程度の差異はあれ復興へ少しずつ向かっている状況です。昨年度は一年を通じて大雨・台風・大雪など自然災害が全国各地で猛威を振るいました。災害復興支援部では災害メーリングリストを活用し情報の収集・発信・共有に務めました。しかしながら被害の程度によっては、情報収集もままならない状況も散見されました。

全曹青災害復興支援部では、復興支援室分室と協働で全国各地のボランティアリーダー（担い手）を増やすべく活動していきます。「全曹青ボランティア憲章」には、『私たちは地域の人々との連帯を深め、共助の心を育む活動をめざします』とあります。災害発生時、寺院に期待される役割は少なくありません。なお且つ、災害復興支援とは現場で汗を流すだけではありません。物的支援・金銭支援・勤労支援・情報支援・精神支援・技術支援など時々の局面にあわせてできることをやることが重要です。そして社会福祉協議会や宗務庁・宗務所・教区と連携し活動することも大切になってきます。

皆様には今後とも復興支援活動にご理解いただき、行茶活動と同じく被災者一人一人に寄り添う長期的な視野に立った活動に対し、ご支援とご協力を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

文／災害復興支援部事務局長　伊藤和貴

災害MLは全曹青ホームページ『般若』からご登録いただけます。http://www.sousei.gr.jp/

face of
全曹青
庶務

■事務局長　倉島隆行
（三重県曹洞宗青年会）

事務局長の役は照明家に似ていると感じます。それは青年宗侶の長所にスポットを当て、全体的な光の調整をする役だからだと思います。

全国で出会う方がたは個性で輝いているので、特別な照明器具は必要ありませんが、調和し、活動できるステージ（場）が必要であると感じます。

櫻井会長を中心に和合して、活動してきた第20期の任期も、残り1年を切りました。まだ大きな事業が残っておりますので、最後まで気を引き締めていきましょう！

■事務局次長　山田俊哉
（秋田県曹洞宗青年会）

タブレットでペーパーレスな会議を導入し1年が経ち、紙資源と経費の大幅な節約が実現しております。執行部各位のご協力のもと、ICT担当として会議が円滑に進むように気合いを入れて臨んでいます。これでも既にフルスロットルなのですが、来年5月まで突っ走られるよう、自分の尻を叩きながら頑張る所存です。人参ぶら下げてください。

■庶務　伊藤承章
（東三河曹洞宗青年会）

今回で2期目となります。全国の各曹青会様方を繋ぐ連絡協議体の運営に、微力ながら尽くしていきたいと思います。全曹青に対する想いは、全国の会員の皆様それぞれであると思いますが、皆様是非とも色々な事業へのご参加、よろしくお願いいたします。

■庶務　伊藤秀幸
（和歌山県曹洞宗青年会）

全曹青に参加して、1年になります。

執行部の皆様には、何かと迷惑かけてばかりかと思いますが、残り1年の40周年記念行事を執行部並びに、各委員会の皆様と協力して頑張りたいと思います。

必ず成功させましょう。

■庶務　伊藤和貴
（曹洞宗静岡県第一宗務所青年会）

前期に引き続き参加させていただいております。

今期は全曹青災害復興支援部事務局長を兼ね、曹洞宗東日本大震災災害対策本部復興支援室分室でも活動させていただいております。近年は全国的に自然災害が多発しています。全曹青としてどのような関わり方ができるのか、すべきなのか、模索しつつ精進して参ります。

■庶務　田村光雄
（山口県曹洞宗青年会）

曹青参加という御役を頂戴して一年が経過いたしました。活動の中で自身の未熟さを教えていただいております。

まだまだ浅学の身ではございますが、少しでもお役に立てるよう精進して参りたいと思います。

■庶務　内藤宏信
（曹洞宗福島県青年会）

全曹青創立40周年という大きな節目に参加させてもらえたことを誇りに感じています。『大衆教化の接点を求めて』のスローガンで始まった全曹青！第20期スローガン『繋がる想いが未来を拓く』のもとに、先輩諸師の想いを未来に繋げていくことに使命感を持って活動しています。「継続は力なり」を肝に銘じ、微力ながら少しずつ精進していくつもりです。応援よろしくお願いします。

■庶務　中川光真
（四国地区曹洞宗青年会）

四国には本州と繋がる瀬戸大橋、明石海峡大橋、しまなみ海道という三本の橋がございます。全曹青の活動を通して学んだ事、経験させていただいた事等を地元曹青会へのかけ橋となって、活動の発展に繋いでいく事が出来ればと思います。浅学非才の上、微力ではありますが努力精進して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

■庶務　牧野良章
（北海道第一宗務所札幌禅林青年会）

この度、第20期全国曹洞宗青年会執行部庶務として参加させていただいております。

浅学非才の身ではございますが、会の発展、40周年記念事業の成功を祈念し、執行部の皆様方のお力添えにより微力ながら残りの任期を努めさせていただく所存ですので、よろしくお願いいたします。

■庶務　道林信隆
（石川県曹洞宗青年会）

このような全国規模の会への参加は今回が初めてです。

庶務の仕事は、各部署との調整や確認の場面も多くあるため、他の部署の人と話す機会があります。そこで沢山のことを勉強させていただいています。

至らないところもたくさんあると思いますが、皆様の為に頑張って行きたいと思うのでよろしくお願いいたします。

■庶務　福永剛彦
（鹿児島県曹洞宗青年会）

第20期より庶務として参加させていただいております、福永剛彦と申します。2年間という限られた期間ではありますが、全国各地より参加されている皆様との貴重な法縁に感謝し、少しでもお役に立てるようにつとめさせていただきます。よろしくお願いいたします。

SOUSEI

発行所／全国曹洞宗青年会　〒105-8544　東京都港区芝2-5-2　曹洞宗宗務庁内　発行責任者／櫻井尚孝　編集責任者／長岡俊成　編集委員／岡本真宰・宮入真道・井上一洸・加藤芳憲・鬼頭大輝・西古孝志・田中昭範・長岡宏宗・横山岳洋・柳沢隆徳

本誌編集部並びに発行部数に関するお問い合わせ先／〒039-4401　青森県むつ市大畑町本町80　大安寺内　TEL 0175-34-2926　FAX 0175-34-6426　制作・デザイン／カラスブックス　印刷所／創文社印刷株式会社　定価200円

■表紙の話

「雲水さん、どこから来たの？」
ふとかけられたその一言から生まれた、語らいの場。
「お茶でも飲んで一服していったら？」
差し出されたお茶を手に取り、さらに語らいは続いていく……。

今号の表紙は、行脚途中でふと立ち寄った公園で、奉仕活動をするボランティア有志の皆さんとのふれあいの情景を描きました。

無言で伝わることもあるけれど、やはり胸襟を開かなければ、語り合ってみなければ、お互いの想いはわからない……。

歴代会長の想いが語り合われ、「全曹青イズム」が世代を越えて受け継がれていたことが確認された、40周年記念式典後のシンポジウム。
そのシンポジウムと同様に、今日も全国各地で、青年僧侶と社会の人々との語り合いが、さまざまな形で続いています。

表紙撮影／谷杉アキラ氏（函館市）

編集後記

「いい加減にしなさいよ」。お檀家さんにこう言われました。筆者は法戦式で「一人前」になり、お山から帰って「一人前」になり、嗣法で「一人前」になりました。少なくとも、その方は護持会報からそのように読み取っていらっしゃいました。その上で私が布教師養成所に通っていると聞いて、「何回一人前になれば気が済むの？　いい加減にしなさいよ」となってしまったのです。

うーん……、ニュアンスの違いを伝えるのは難しい……。

『SOUSEI』の誌面から広報委員長の長岡俊成師と私、長岡宏宗が親戚だと思われてしまうのも無理はありません……。

（広報委員　長岡宏宗）

紛争が始まって３年、
シリアの悲劇は今も続いています・・・

@UNHCR/A.McConnell

シリア紛争の始まった頃、2011 年 3 月 15 日にアシュラフ君は生まれ、2 年近くも爆撃の音の中で育ちました。
1 歳の時、叔母さんと伯父さんが殺され、彼の家族は「次はうちかもしれない」と恐れ、避難することに決めました。それから数日のうちに故郷の家は全焼しました。
避難先では仮設住居がぬかるんだ野原に建てられました。
壁はビニールシート、看板や金属の寄せ集めで作られ、床には毛布とマットが敷かれました。アシュラフ君は、今でも大きな音を怖がります。シリア紛争の記憶が、彼の心に深く傷を刻んでしまったように見えます。

シリア周辺の国に逃れたアシュラフ君のような子どもの数は、110 万人を超えました。
どうか今すぐのご支援をお願い申し上げます。

国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) は、世界約 125 か国で難民・避難民の支援に従事しています。UNHCR の活動資金は、各国政府や民間からのご寄付によって支えられています。
国連 UNHCR 協会は、UNHCR の公式支援窓口です。皆様のご寄付は税控除の対象となります。

【お問い合わせ・ご寄付お申込み】
フリーダイヤル **0120-972-189**（平日 10:00-18:00）

JAPAN FOR UNHCR
国連UNHCR協会
www.japanforunhcr.org